



技術史教育

第135号

2023.8.10

Electronic Journal for History of Technology Education

第135号 目次

- 日本技術史教育学会2023年度総会・研究発表講演会開催報告 ……柴崎 年彦(1)
- 2023年度年総会報告・受賞者への一言・総務担当理事・島田理文・永尾徹・高峰 大暉(2)
- 2022年度決算書・2023年度予算書 ……(3)
- お知らせ・理事・幹事録・編集後記 ……(4)

総会・研究発表講演会開催報告

2023年度総会・研究発表講演会開催報告

2023年度総会・研究発表講演会開催委員
柴崎 年彦(元産技高専)

今年度の総会・研究発表講演会は東京都立産業技術専門学校産産産の弓削(パス品川CP)が会場となり、対面を主とし、オンラインを併用したハイブリッド形式となった。

会場は、7月23日に堤先生に会場をいただき、グループワーク・エンディングデザイン利用を目的とした西棟5階のPBI-B教室と決まった。前日夕方、品川CPの情報システム工学部の小早川先生と同属3年の手伝い学生3名の協力で会場準備を完了し、17:00からはオンライン配信。お願ひしたサジオ声真・ゆかり先生とZoom接続の確立を行った。その後、当日17:00で参加・発表される委員の先生方全員とパワーポイント等の原稿を投影してバックアップ作業を1時間程度かけて、接続状況や音質調整の確認を終えた。並行して、会場内の立て看板を校舎内外に設置し、お迎えの準備を整えた。7月8日開催日当日は、17時より受付開始した。オンライン接続のサポートについては、手伝い学生に手厚く対応して頂き、9時過ぎに予定の形式で発表講演会がスムーズにスタートした。

今回の発表は、特別講演を除き13件と、総会を含め17日ほどで1日掛かりであった。1日の技術文化史のセッションでは、武長先生による戦国時代の水利事業にフォーカスした「八田ダム」の「歴史的アピール」を皮切りに、堤先生の「官設鉄道京阪神開業に至る動向と産業技術史的意義」、中野(信)先生の「石材四角利考(一)-日本-と石片チキリ(社寺・橋)を中心として」、吉田(知)先生の「明治海軍の発明家(三) 二郎-国産ボイラの発明-」と4件の発表があり、いずれも会場でご講演頂いた。本セッションの終了後、昼までの1時間、日本メカニズムアーツ研究会の佐々木(三)先生・山田先生の特別公演「機巧の原点と展示」が行われ、会場教室に展示場をセッティングして頂き、「二丁天(台時計)」、「弓曳童子」、「耳なし文字書き人形」など7つの机巧の実演(写真1)を受けて頂いた。参加している多くの学生もアナログの仕組が興味津々で、質疑者からの質問も多く、大変好印象であった。

午後の第2セッションは、技術史・技術教育の分野で、5件の発表が行われたが、全てオンラインによる発表となった。山館先生「ハンニバル像の変遷(明治後期その三)」、成先生「技術史教育 第135号 2023.8

生の加古川舟運における開港後の発展史-町づくりと川浚い」、吉田(知)会長の「アナログコンピュータの時代」の後、丸山先生・中野先生の「私設気象観測所と大学研究室の研究データを活用した工学教育(第2報)-自動気象観測データと評価」を電気系、機械系に授業に活用して-」等として発表頂き、最後に白土先生・ケサン氏・倉田先生・山田先生の「ブータンの技術教育の変遷と課題(8 部)-ブータンの20年にわたる技術支援の視点からみた、技術開発を促す要因(その2)-」を発表頂いた。前日の練習準備も、より遠隔でも滞りなく質疑が行われた(写真2)。

午後の第2セッションは、技術史・工業教育の分野で、岡崎先生・中野先生の「ハイブリッド自動車(HEV)の技術史とその性能・特徴について-主としてトラック向けハイブリッドを題材にして」、鳥谷先生の「明治10~20年代前半における糸原家の動向(第1報)-「農事日記」(糸原家文書)に見える日々の動き」、牛山先生・飯野先生の「戦時下の風力発電について」、平野先生の「銅管・関口先生・奥先生の機械製図の近代化の変革に関する研究-表面性状の変遷(現状について)-」の4件が、会場でご講演頂いた。この後、総会と表彰式が行われ、無事に閉会となった。



写真1 机巧実演の様子

写真2 オンライン講演の様子

千前、午後と特別講演の楽しみ、いずれもオンラインを活用したハイブリッド開催であったが、お手伝い頂いた小早川先生と手伝い学生に、その場(の場)で対応頂き、ご滞り運営が出来た。ここに改めて御礼を申し上げます。2023年度の開催報告とします。